

おおいた県の  
「ひじまち」つち  
知つちよん？

この本の舞台は

大分県速見郡日出町という小さなまち。  
ご存じない方も多いと存じますが、

このまちで暮らす人々  
ちょっと羨ましくなるくらい、  
幸せそうなんです。

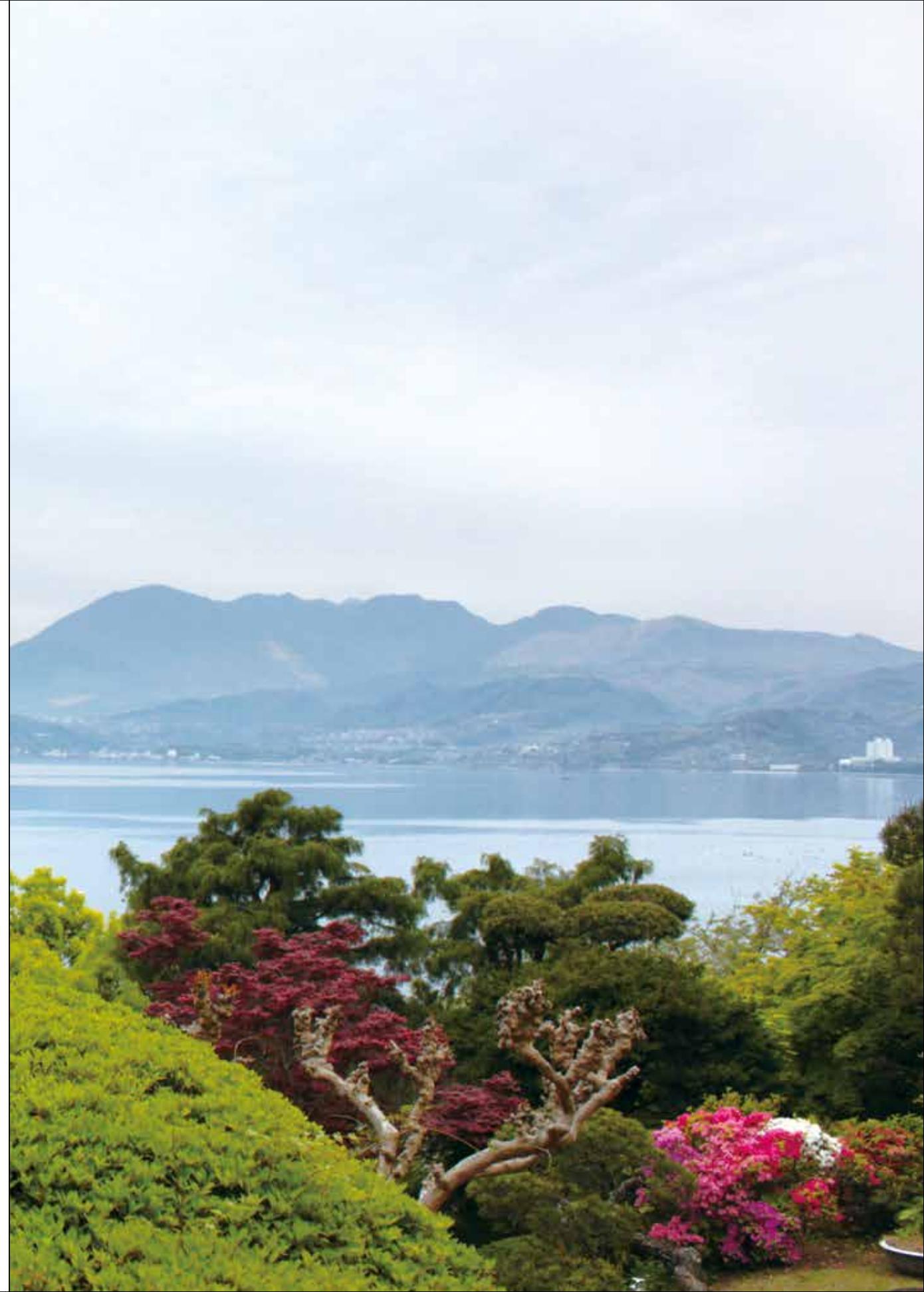
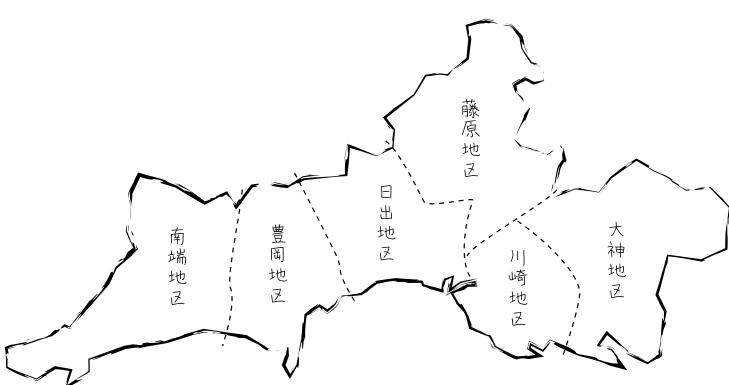
派手じゃないけど、温かい

おおらかでのびのびとした人たちの

幸せの理由をちょっとずつ  
探つていきたいと思います。

目 次

- 02 はじめまして、日出町です。
- 04 ひじまち歩き
- 08 特集1 お接待
- 20 ひじまち写真館
- 24 特集2 水とともに
- 36 ひじ産イロイロ 第1回 まちのパン屋さん
- 42 お母さんの手仕事 第1回 手ぬぐい帽子
- 44 特集3 ひじ暮らし 日出のまちとの向き合い方
- 56 トピックひじまち たご天神伝説 ～ザ レジェンド オブ タコテンジン～
- 58 アクセス
- 60 ひじ暮らし、考えてみませんか？
- 62 日出町 MAP



はじめまして、  
日出町です。

九州は大分県の北東、國東半島と呼ばれる  
丸く突き出た半島の付け根にある、

人口2万8千人ほどのこぢんまりとしたまちです。

海と山に囲まれたこのまちは、  
自然豊かで暮らしやすい、

どちらかというと地味なまち。

高いビルのような都会的なおいはありません。  
ここに吹く風は潮と木のにおいを  
まちの人へと運びます。

「田舎」というほどでもないけど、  
普段から自然を感じる。

「都會」過ぎないからこそ、  
暮らしが愛せる。

派手さのない何気ない日常の中に、  
まちの人たちが普段口にしない  
まちの魅力が詰まっています。  
これからまちの人たちの暮らしぶりを  
少しずつ紹介したいと思います。





鬼門櫓の瓦には、木下家の正式な家紋として、「抱き沢瀉もちだち」が使用されている



城址に建つ小学校（左）と二の丸館（右）。  
白壁が美しい通り



また、町の図書館「萬里図書館」や、平成25年に復元を終えたばかりの「鬼門櫓」が並んでいます。鬼門櫓は、明治6年の廃城令後、日出城内で唯一残った櫓です。元

ており、当時の面影を残す建物が

櫻内は資料室になつており、見  
学可能。時を遡り、当時の様子を

は本丸の北東（鬼門）にあつた櫓で、災いを避けるために建てられたと云われています。また、鬼門を忌み嫌い北東の隅を欠いた形状のため、別名隅櫓とも呼ばれています。



# ガイドさんと歩く ひばりが丘歩き



待ち合わせ場所の二の丸館は、日出町観光案内所があり、土産・喫茶・ギャラリーが併設されている

小学校の正門付近には、日出町にゆかりがある、帆足万里と瀧廉太郎の銅像が並んでいます。帆足万里は豊後三賢人のひとりで、江戸時代後期の儒学者・教育者として多くの子弟を育て、私塾には千人ほどの教え子がいたと云われています。

名曲『花』で知られる音楽家・瀧廉太郎の祖先は、代々日出藩の家老などの要職にあつた家柄でした。

二の丸通りは元々、家老、藩主の現成ならざり主として、二三五つれ

日出城復元図。当時の様子と照らし合  
わせながらまちを巡る



豊後三賢人(大分県の三大学者)のひとりである帆足萬里(左)と、日本最初の西洋音楽作曲家ともいわれる瀧廉太郎(右)



## 学問の歴史を感じる 二の丸通りへ

江戸時代は城下町だった日出町。今から400年前、徳川家康から三万石を与えられ、初代日出藩主となつた木下延俊が、慶長7年に日出城を築城しました。現在、城址には日出小学校が建つています。



的山荘の靴脱ぎ石。京都から船で運ばれた鞍馬石は、当時の繁栄ぶりが偲ばれる



大サザンカは中学校内を通る道沿いにある



1時間半歩いて、樹齢400年以上の大サザンカがある中学校の敷地へ。サザンカは町花であり、晚秋から可憐な花が咲きほころびます。

コースを一周すると、「二の丸館」に到着。歩き終えた体を癒しながら、のんびりと買い物や喫茶を楽しむことが出来ます。

いかがでしたでしょうか、「ひじまち歩き」。皆様の訪れを楽しみにしています。

**ひじまち歩きガイドの会**  
参加申し込み・お問い合わせ 日出町観光協会  
住所: 日出町 2612-1  
電話: 0977-72-4255  
受付時間: 9:00 ~ 17:00 (年末年始を除く)



「二の丸館」内の  
お土産コーナー



まち歩きには  
ロマンを

うちに、いつの間にかガイドの一員になったという赤野さん。参加者に昔のロマンを感じてもらえるよう「参加者が歴史的背景を具体的にイメージしやすいように説明している」そうです。

三の丸通りには、大正時代初期、馬上金山と呼ばれる金山で金鉱を当てた成清博愛が建てた豪邸「的山荘」があります。

約3670坪の敷地内には、凜とした風情ある借景庭園があり、来客を喜ばせてくれます。

「歴史やお城に詳しい人が観光客に多いですね」と、赤野さん。

まち歩きの参加者は、福岡はじめ、東京や大阪からも多いそうです。

日出町の歴史を学ぶ「致道館塾」で、塾長や塾生に褒められる



別府湾の絶景が望める城下公園。散歩やウォーキングの休憩場としても人気

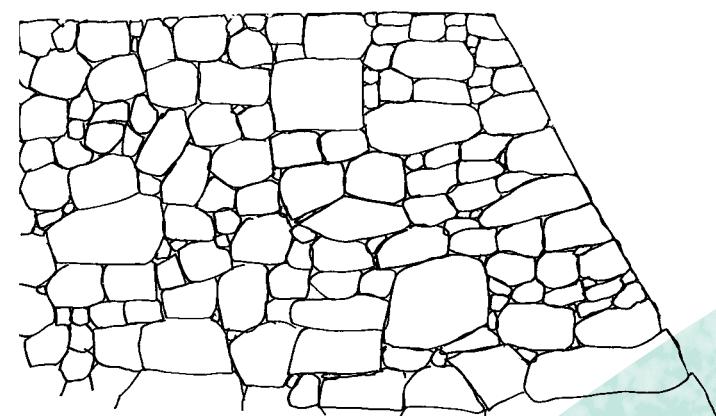
日出城址の周りをぐるりと巡る道沿いにも、様々な歴史の面影が隠れています。  
緑の豊かさと、自然の美しさを感じることが出来る憩いの場「城下公園」には、こんな詩が刻まれた石碑があります。

湯けむりのたちのぼる町近く見え  
城したの海 蒼くすみわたり  
青くて大きな空と海、遠くには  
白く立ち昇る別府の湯けむり。公園からは、まさしく詩そのものの  
光景が望めます。

また、天に向かって高らかにそ  
びえる城址の石垣は「穴太積み」と呼ばれる自然石を使った野面積

## 雄大な自然の景色を

日の技法で積み上げられており、  
そのダイナミックさには、訪れる  
人も目を奪われることでしょう。





おこぼ様の前掛けは「おちょちょ」  
「おとちょ」と云うのだそう

# 特集 1 お接待

「お接待」は真言宗の開祖、弘法大師空海に対する信仰行事で、旧暦の3月と7月の21日に弘法大師の像を祀り、近所の人や子どもたちを

家やお堂に招いてお菓子やおもちゃなどをふるまうという風習です。

日出町には弘法大師を「おこぼ様」と敬い、石像や巻物を祀り、お接待を行う所が数多くあります。

お接待の基礎になつたのは太子信仰であると言われています。太子とは、民衆に恩恵を与えるため訪れる遊幸の神。古代、太子の訪れを期待し、厚くもてな

お接待の日、子どもたちはお参りするともらえるお菓子を目当てに、おこぼ様を祀っている家々をはしごします。

今年のお接待は4月30日の火曜日。晴天続きだった春の陽気から打つて変わって、雨が降ったり、止んだりの1日でしたが、学校が終わる昼過ぎから、あちこちでお接待の準備が始まりました。



皆さんがあ大切にしている  
おこぼ様にきちんとお  
参りする

お賽錢を準備

歩きやすい靴・服装で  
頂いたお菓子やごみを  
入れる袋を持参

地域の人とのコミュニニ  
ケーションを楽しむべし

## ～お接待の楽しみ方～





左側の写真  
左側の写真  
左側の写真  
左側の写真  
左側の写真  
左側の写真

行く先々で、撮影中の立派な大人である私にも「お菓子を持っていきよ」と子どもたちと同じ量のお菓子が手渡されます。遠慮すると「いいからいいから」と、人懐っこい笑顔で微笑む地元のお母さん方。なんだか気持ちがほっこりします。

お接待初体験  
編集スタッフ

4月30日火曜日。今日は待ちに待った「お接待」の日です。豊岡小学校は4時間目まで。急いで帰つて午後1時30分。そこから和製「ハロウィン」とも言える子どもたちの一大イベント「お接待」がスタートです。

今回、お接待の仲間に入れてくれたのは、豊岡地区に住む小学5年生の女の子。安部宇美ちゃん、岩尾茉央ちゃん、内藤小菜美ちゃん、古川栞ちゃんの仲良し4人組。さすがに女子4人も集まると女子会しながらのかしましさ。普段は静かな町内に楽しそうな声が響き渡ります。

お接待で出されていたお菓子は「かつばえびせん」「焼きとうもろこし」「サッポロポテト」など。昔ながらのお菓子を想像していたのですが、現代っ子が好きそうなスナック菓子が多く、今では「おまんじゅう」や「最中」を喜んでくれる子どもは少なくなつたとか。時代は変化してゐんだなあ。



右上から時計まわりに、安部宇美ちゃん、岩尾茉央ちゃん、内藤小菜美ちゃん、古川栞ちゃん

当日の空はあいにくの雨模様。

傘を差しながらのお接待はちょっと大変ですが、子どもたちは全く気にしていない様子。スタートした途端、走り出す小さな戦士たち。しょっぱなからパワー全開です。ちょっと待つて…。

まずは、熟練戦士たちの嗅覚にまかせて、お接待が多く行われていそうな場所へ。どうやって嗅ぎわかるのか不思議に思つて聞いてみると、「気配や匂い」で大抵分かるとのこと。さすがです。



「〇〇ちゃん、もうあそこに行つた?」「あっちにもあつたよ」と、子ども同士の口コミで情報はどんどん広がります。「宝探しみたいで楽しい!」と言う宇美ちゃんの言葉にも納得。

そう言えば遠い昔、遠足のレクリエーションで「謎解きゲーム」をしたつけ。あの時はワクワクしたな…。などと、しみじみ郷愁にかられている暇はございません。少しでも立ち止まると、4人は既にはるかかなた。それもそのはず、大抵のところは3時頃には早々に店じまい。子どもたちに

とつてはここ1時間半が勝負だ

ろ。いそげいそげ。

結局全部で11件訪問し、気付け

ば時刻は午後3時。用意されたお

菓子もきれいに無くなつて、お母

さんは片付けに大忙し。女子

チームの大きなお菓子用バッグも

はちきれんばかりにパンパンで

す。さて、あとは帰つて皆でいた

だいたお菓子を食べながらお話し

ようか。

宇美ちゃんのお家にお邪魔し、「お疲れさま」とジュースで乾杯。皆でお菓子をほお張りました。

2年前に東京から大分県に越し

て来て、お接待はもちろんのこと、同行取材も初体験の私の緊張など吹っ飛んでしまうほど、あつとう間の楽しく貴重な体験でした。お接待を通じた交流も数少なくなつてきてているそうですが、永く受け継がれると良いなと思います。

豊岡地区的皆さん、ありがとうございました!

にしこ



たいへん  
よきで  
ました



おせっかい

# お接待を伝える人々



めがね菓子をくるるのが

ありがたかったんじやあ

うてな…

松本伊勢松さん

松本伊勢松さん。生まれは大神

の秋貞地区です。1941年、海

岸沿いの秋貞地区を始めとする数  
地区が海軍に強制的に買い上げら  
れた為、そこに住む人々が集団で  
少し山側の原山地区に移ってきてま  
した。隣同士だった家々も、少し  
離れた場所で生活することになり  
ました。しかし、お接待の日は当  
時の地区ごとに集まり、お菓子を  
ふるまるのです。

今年93歳になる伊勢松さんに、  
昔の思い出話を聞いてきました。

—お接待は楽しみでした？



伊勢松さん(※以下「伊」と表示)

「ああ、おこぼ様は恵んじくる  
るからな。おこぼ様の日というか、  
お接待もらいの日となつちよる」

—へえええ。

伊「そいから、いやもらいちい  
うてな…」

伊「いいやもらいとは、いやごと（人  
が嫌がること）という方言をもじ  
り、何度ももらいにいくこと  
もおるんじや」

※いやもらいとは、いやごと（人  
が嫌がること）という方言をもじ  
り、何度ももらいにいくこと  
もおるんじや」

伊「昔はただ貰ろううちまわる  
だけで。『こらもう、いやもらい  
にきたやろうが』と怒られよった

のですよね。



(笑)  
—へえええ (笑)。伊勢松さん  
は怒られました？

伊「わしゃあ、見らるると、何  
かしら悪りいから、いやもらいし  
たことねえ。いやもらいするもの  
がありよつた。それでもおこぼ様  
は責めんで『よしよし』ち言うち、  
お接待くれよつた」

—なるほど。伊勢松さんが小さ  
い頃は、学校帰りにお接待があり  
ましたか？

伊「あんなあ、遅う出しそつた  
から、家に帰つてカバンおろし  
ち、わざわざ袋もらつち、それ  
からお接待もらいに行きよつた。  
今は学校帰りだとお菓子がもうな  
かつたりと、あんまり子どもに容  
赦せんからなあ」

—どんなお菓子が好きでしたか？

伊「ふきよせ」ちゅうのがあつ  
て、良いお菓子じやけどな。それよ  
りも、輪の菓子をくるるほうが、  
ありがたかったなあ。はははは  
—めがね菓子ですね!!!

—輪を作るのは、お家に帰つて  
からですか？

伊「じゃあ。もう絶対に回りな  
がら食べん、袋いっぱいもろち  
帰つちから、こらすのがたのしみ  
のひとつじやつたなあ」

—そなんですね。

伊勢松語録  
・貰うちまわる…貰ってまわること  
・出しちゃらな…出してあげないと  
・ぐるる…くれる  
・見らるる…見られる  
・じゃあ…Yes  
・こらす…こしらえる  
・やむる…やめる

へんに越してきた人たちは知らな  
かつたみたい



## おこぼ様がこの家を 守ってくれちよん

工藤悠紀子さん・久美子さん

クッキーにおせんべい、あめ玉にスナック菓子、時には小さな大根と、毎日違うものが供えられているおこぼ様。色鮮やかな花に埋もれて、顔が見えないほどです。

おこぼ様の手入れをしているのは、工藤輪業の工藤悠紀子さんと娘の久美子さんです。

「うちのお父さんがこの店を始めた頃からはあるはずやけん、もう70～80年かな」というのは悠紀子さんよね」。



「うちのおこぼ様は派手なこと、楽しいのが好きなんよ。だから、裏に置かんで表に出すし、前掛けも赤やら華やかなのを定期的に替えよんけんな」。埋もれるほどの花に囲まれているのはそんな理由からだそうです。

「1年に1度お風呂の日もあるんですよ」。通りに面しているとどうしてもほこりが積もってしまうため、自宅のテーブルに上げてきれいに洗って、前掛けを付け替えます。

さん。毎朝、5時半に起きて身支度を整え、お店の前の通りに面したおこぼ様の花の水を替え、お菓子を供えます。「クセなんやろうことはないなあ」。悠紀子さんがこれまで、今年101歳になる悠

おこぼ様の花を替え、お菓子を供える仕事を受け継いで約20年。

それまでは、今年101歳になる悠紀子さんのお母さんがお手入れをしていました。『今日は忘れちよつた』つち見よつたけんか、当たり前のことが

見よつたけんか、当たり前のことが

工藤悠紀子さん(前)と久美子さん(奥)



町内のスーパーではお接待前には大きな袋でお菓子が販売される

悠紀子さんや久美子さんが日常のこととして、お世話するおこぼ様、訪れた人から「ここのおこぼ様はにっこり笑つちよんな」と言わられるそうです。悠紀子さんは「他のおこぼ様、あんまり見たことないけん分らんのやけど、そう言わると嬉しいな」。

「毎日きれいにお花が上がったおこぼ様、手を合わせんと前を通られんわ」と、手入れ中の悠紀子さんに声をかけてくれるご近所さんもいるそうで、おこぼ様を通じて、多くの人と出会えるのも楽しみのひとつだそうです。

「ここは小学校と中学校が近くにあるし、お接待の日は毎年たくさん的人が来るんよ」

キロ単位で買ってきたお接待菓子を持ち帰りやすいように、小分けにするのは娘の久美子さんの仕事。お接待が近くなると、スーパーに買い出しへ出かけ、夜な夜な小分け作業を行います。「全部2個



おせったい

ずつ入れんといけんって、おばあちゃんに教わったんで、何種類かを2個ずつ」と言う久美子さんは、昨年700個の小分け袋を作ったそうですが、見事に無くなりました。「お接待も正直言うと大変やけど、お祭りやけんな。おこぼ様がこの家を守ってくれちよんと思つちよん」と悠紀子さん。

お接待の日、学校を終え、次々とやってくる子どもたちに「お参りしてなあ」と声を掛けるふたりの手は休まる暇がありませんでした。





### ■あめ

定番のあめ。お接待の途中に口の中やポケットに入れる子多数。



### ■ゼリー

色とりどりのゼリーは、見た目にも楽しい気分にさせてくれます。



### ■チョコレート

入ってると嬉しいチョコレート。持ち帰るときに溶けないように気を付けて。



### ■ふがし

子どもは持ち帰って、お父さんやおばあちゃんにあげちゃうそうです…。

# おせつたい菓子



### ■栗まんじゅう

子どもと一緒に訪れるおじいちゃんおばあちゃんたちに人気。



### ■ふきよせ

もち米とどうもろこしで出来たふんわりとしたお菓子。甘くてしゃぼい不思議な味。



### ■めがね菓子

伊勢松さんが繋げて遊んだめがね菓子。小麦粉・砂糖・水あめで出来た素朴な味。



### ■かれい最中

日出町名産の城下かれいをかたどったかれい最中。見た目も可愛い。



地域の人が交代でお接待当番を担当する

### 大神下後班の皆さん

畑の脇の小道を抜け、竹や木の枝が迫る山道を少し登ると、御観音堂と呼ばれる觀音様のお堂があります。お堂の中でお茶やお菓子を広げ6～7人の地域の皆さんがあしやべりをしながら、お接待に訪れる人を待っています。お堂の前で立ち止まる人を「おこぼ様は奥よ。先にお参りしてね」とご案内。「雨の中、いらっしゃい」。親子3代で訪れたお客様にお菓子の入った小皿を手渡すと、傘を置いた女の子は、持ってきた袋にざらざらざらとお菓子を滑り込ませます。

その様子を眺めながら、嫁いで来て65年という佐藤ミツさんは「私がお嫁に来た時から、この御觀音堂でお接待をしようつたわ。昔はお接待の後、ここで男ん衆がお酒飲みよつたわ」とお菓子を眺めながら、嫁いで来



「お皿は返すのよ」。昨年、家族で引っ越してきたというご婦人も、ご近所の奥さんにお接待のルールを教わっていました。こんな何気ない時間に地域のことが受け継がれているようです。

「こういう場所で伝えられるんやろうな」と懷かしそうに話します。

お接待の思い出話から話は弾み、「人に良くしろ、人にふるまうのは自分のためやつて」とお姑さんに「も言われたわ」、「小せえ頃、ものもらいができたら御觀音堂に来いつちと言われよつたわ」など、集まつた人たちが、それぞれに伝え聞いた教えや地域の昔話を次々に話します。

ひじ

みわ

いのく





13

⑧お城の跡地の学校で学んでいます ⑨春の陽気の中、皆さんご機嫌 ⑩教えてくれてありがとうございます ⑪町内にはかわいいモチーフがいっぱい ⑫え～、竹細工の指導中なんですね ⑬日出土産にいかがですか？ ⑭大通りを曲がると、こんな光景が



12



8



14



10



11



9

# 特集2 水と暮らし

暮らしに欠かせない水。

私たちは日々、水の恩恵を受けながら暮らしています。水道が今のように普及する前、

川で洗濯をし、風呂に料理にと、

使う水を汲みに出かける毎日でした。

そんな暮らしを「おとぎ話のようだ」と

思う人もいるでしょう。

水に集まる人々が紡ぐ物語は、今もなお続きます。

人ととの会話。そして、神様への祈り。

絶え間なく湧き出る、水とともに暮らす人たちの

物語に触れてみましょう。



## 山暮らしならでは

十三子さんは、棚田が広がる山間の地域に住んでいます。

家の近くにはコンコンと清水が湧き立つ山田湧水があり、機械で汲み上げ、家庭用の水として利用しています。

自然豊かなこの地域には猪などの野生の鳥獣が現れるため、裏山に罠を仕掛けています。

「今日もさつき、『おばちゃん、向こうの山で猪一匹獲れたんだ』って言うてから。『はあああ、ほんとかい』って言つち」

水浴びや泥浴びをし、水を好むという猪ですから、この辺りの山々では尚更現れやすいそうです。都会ではありません、山暮らしならではの会話です。



上：十三子さん手製の蕗の炒め物  
は、ご家族のお気に入り

中：蔵には恵比寿様の饅頭

下：神様に捧げる水は、無色透明  
な湧水を



農家の朝

村井家は農業で生計を立てていました。

牛馬耕が主流だった頃、山羊や  
うさぎ、鶏とともに牛馬を飼い、  
田起こしや代搔きを行っていたそ  
うです。

男たちと別府や亀川の市場へ。その帰り道、リヤカーを預け、「私は朝の一番汽車が真横を通ると一緒に、競争しちよつた」と笑います。

たらいを抱えて、川で洗濯  
家の脇にある木のトンネルをくぐり抜け、森に囲まれた小さな農道の先にある水源へ水汲みに行つていた十三子さん。水道も機械も



水神様へのお参り

家の前にある溝では、「川で洗濯」をしていましたそうです。村井家では溝のことを「川」と呼んでいたくらい綺麗な水が流れており、嫁いで間もない頃、家の前の川で水を汲んでこいと言われたときは、「そこ、川つちいうんかい」とびっくりしたそうです。

「山香は川つちいうたら大きい川のことというからなあ」

「水に慣れる」という言葉があるように、新しい家族のもと、働きながら環境に慣れてゆく楽しみを見つけてきた、と微笑みます。

なつてゐる水源があり、そこには「水神様」という大切な水の神様がいます。十三子さんが嫁ぐ前から、水や家族を見守つてくれています。

ここへ来たら必ず、湯呑みの水を替え、庭に咲いたお花を生けてお参りをする十三子さん。畠仕事の合間に、家族のこと、そしてお孫さん2人の将来をお願いしてきましたそうです。願いごとの内容を知ったお孫さんが、『えーばあちゃん本当?』ち、涙しよつたな」と、裏かしみます。

毎年、十三子さんの家では米を作ります。

森にいる鳥の鳴き声の下、十二  
子さんは続けます。

## 水車小屋の音

山田湧水の水汲み場の付近は、  
その昔、小道の横に深い谷があり、  
間を流れる小川の上に、大きな水  
車小屋があつたそうです。もうひ  
とつ、小高くなつた丘の上にも水  
車小屋があり、米つきや粉ひきに  
利用しました。

ない時代、長い竿に2つのバケツを天秤のようにはりつけ、肩に担いで、汲んで移してまた汲んでと、毎日毎日、何度も往復をしました。「分厚いバケツでな」と、両手で体の半分くらいの大きさを表します。「私は背が低いけ、バケツが大きかつたなあ」

水を汲むと重さは相当なもの。力を要する仕事に戸惑いながらも、毎日欠かさず、暮らしのため働いていました。

初夏の田植えの時期は、息子さんたちと力を合わせます。

水神様に守られ、その恩恵を受ける家族、水とともに暮らす大切さを教えてくれました。



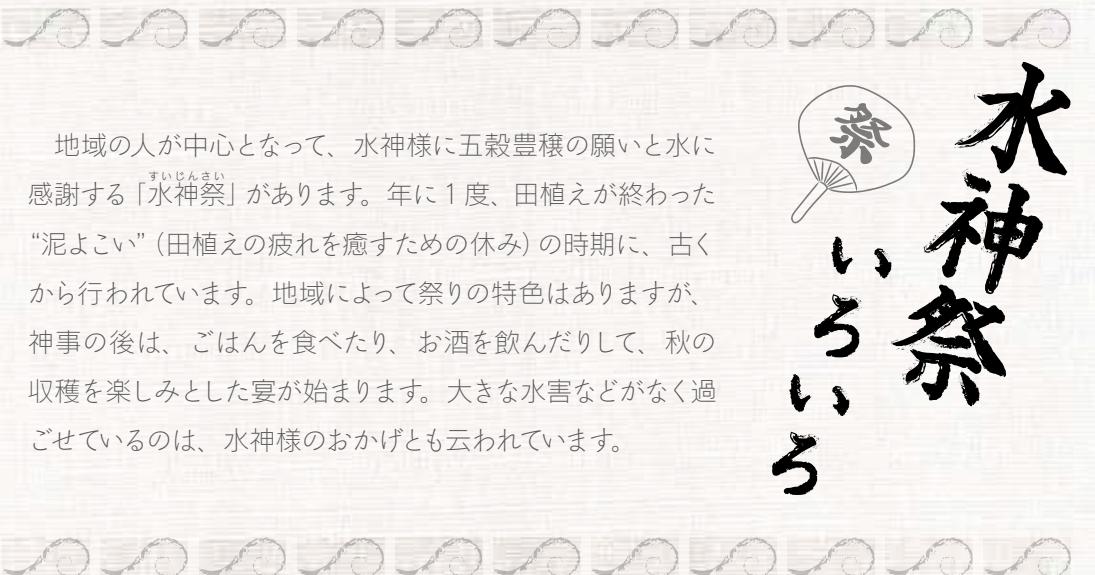
自然のミネラルが  
溶け込む湧水

水汲み場に  
行こう！

町民の飲み水のほとんどが、湧水でまかなわれている日出町。ミネラルが溶け込んだ湧水を、多くの人が利用出来るように、水汲み場が設けられている場所があります。

朝から夕方まで、空の容器を手にした人たちで賑わう水汲み場は、町民のみならず町外の人たちにも愛されています。

今回は、日出町の水汲み場の代表ともいえる、山田湧水と観音の水にスポットを当ててみました。



### 一、出ル水水神祭



豊岡出ル水地区の出ル水の水源地にて、毎年8月上旬に行われます。昭和38年から行われ、平成25年で51回目を数えます。もともとは付近に住む農家の方が、水の恵みに感謝するために行われていたそうです。昔は、水神祭には小浦地区の漁民たちが水の代金として、「魚一荷(天秤棒の両端にかけて、一人で肩に担えるだけの鮮魚)」を提供していたといいます。

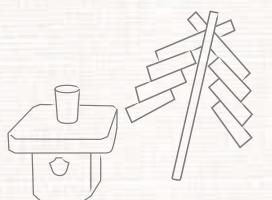
### 三、うどん祭り

藤原清水地区にある水源地にて、毎年7月上旬に行われる行事です。100年以上前から伝わっており、集落の中から順番で2軒の座元(当番)が取り仕切れます。祭りの締めにうどんを振る舞うことから「うどん祭り」。昔はご馳走だった豆腐やうどんなどが食卓に並び、今でも地域の人々は賑やかな祭りを行っています。



### 二、山田湧水の水祭

豊岡山田地区の山田湧水の水源地にて、毎年7月に行われます。当日は、集落の人々総出で草刈りや掃除した後、神主様を呼び、神事を行います。新しく作ったしめ縄をかけて、御幣をあげます。感謝の祈りを捧げたら、水口神社の前にある畳3畳ほどのスペースにござを敷き、お弁当やお酒、お茶をひろげて、五穀豊穣を願います。



## 湧水は、

自然の美しさのなかにある

山田湧水は、豊岡の自然豊かな山間、フランシスコ・ザビエルが歩いたとされる古道の途中にあります。あたりは水の恩恵を受けた美しい棚田が連なっています。

午前中、水汲み場は多くの人で賑わっています。辺りは、自宅から持つて来た空の容器で一杯です。「多めに汲んどかないと、すぐなくなるからな」

「近所の人にも持っていくんよ」そう話しながら、杵築市から来たというご夫婦は、分担しながら水を汲みます。

石のタイルが敷きつめられた水汲み場は、近づくとひんやりとした空気に包まれており、方々にある4つの管からは、水が勢いよく落ちます。大分市や別府市からも訪れる人は多く、「おいしいのはこここの水」と、町外での評判も良いようです。「水の臭いが全然違う」と、ほと



別府から水汲み歴6年。30キロの水で満タンになった容器を乗せて。水のお裾分けありがとうございました



湯布院から来たご夫婦とパールちゃん。近くに住んでいる娘さんの手伝いついでに「しおちゅうくるよ」とのこと



●山田湧水 MAP P63  
日出町豊岡字山田

## 山田湧水

などの人がお茶やコーヒー、料理に使用するそ�で、クセのない水を求めるリピーターも多数。

水汲み歴は5年から15年と、長年通っている人が多く、手慣れた動きで、水で満タンになった容器を車に詰めていきます。そして、水汲みが終わると車に乗り、坂を下って帰ります。と同時に新たな水汲み客が訪れます。空の容器を乗せて。それはもう、ひつきりなしに。さあ、お次は、観音の水へ。



まちの中心に、  
名水は湧き立つ

観音の水は、国道10号から小浦交差点を曲がり、高架をくぐるとすぐ右手に見えます。

夕方に訪れてみると、こちらも多くの人で賑やかです。近くを走る電車の音に負けず劣らずの水の音。ドドド、ダダダと小さな滝の音のようです。

「別府に行つたついでにね」と、山香町から来たというご夫婦。仕事の合間に水筒に汲む人もいたりと、「気軽に水汲みに行けることが良い」そうです。

こここの水は、防火用水として、



大分市から2～3週間に1回来るそう。「水買わないですね～」。水汲み歴10数年



●観音の水 MAP P63  
日出町平道2041番地

地域の人々を守るためにも利用されています。

皆、空の容器を手にし、リズミカルに水を汲みます。それがとても速いこと。1リットルの容器が5秒ほどで満タンになり、水の粒が踊るようにあふれ返すほどです。さて、「井戸端会議」という言葉は、「江戸時代の長屋に住む女性たちが、井戸近くで水汲みや洗濯しながら世間話をする様子」が語源と云われています。

そして、現在の水汲み場にも、人々が集まっておしゃべりする光景がありました。これからも集まる人々に長く愛されるよう、大切にしていきたい「水汲み場」です。

## 二、山田湧水の水神様

鹿鳴越の険しい山々が連なる麓にある山田湧水の水神様です。棚田の上部に3つの祠があり、明治時代に造られた「水口神社」と表記された水神様と、江戸時代より前から祀られたと云われる水神様が1つ、また、水源へ向かう農道の脇を流れる小川の上にも1つあります。



## 三、和泉の天満社

和泉という地名のごとく、清い水が湧き出していたこの地域に神社があり、水神様が祀られています。

水田耕作を経済基盤とした町民が、祭りに使用したという小型の土器が池中から発見されており、古来から「水の神＝灌漑の神」として祀り、生活を支える大切な存在として信仰の対象になっていたことがうかがえます。



## 四、東仁王の水神様

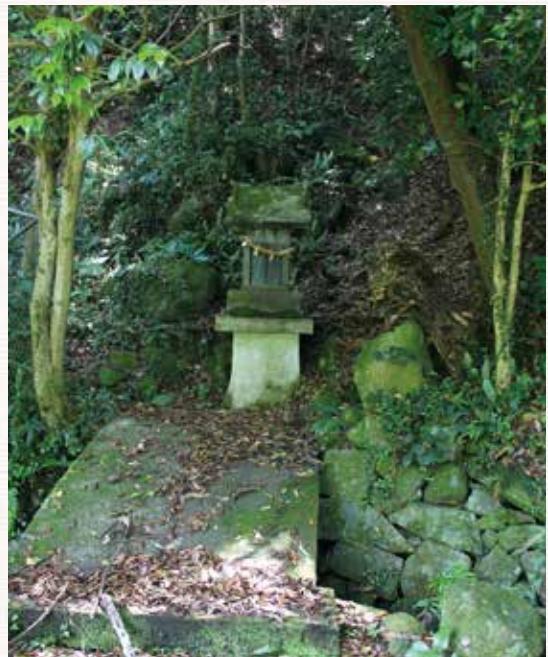
東仁王の水神様の周りには、多くの棚田や果物畑があり、そばには「水元のムクノキ」と呼ばれる、信仰の対象である大木が存在していました。現在は区画整理され、神社の跡地は公民館となり、のどかな田園風景が消えつつありますが、今もなお、水源地からは無色透明な清水が湧き立ちます。毎年欠かさず水神祭が行われ、地域の人々によって大切にされています。



水の神様「水神様」は、水源地や田んぼ、井戸、水汲み場のそばに祀られていることが多い、日出町にも水源地を中心に、数多くの水神様が祀られています。今回は、その内4ヶ所にある水神様を紹介します。地域の人たちの水を守ってくれる大切な水神様ですので、散策中に水神様を発見した際は、どうぞ、そっとお祈りしてくださいね。

水  
神  
の  
こ  
と

## 一、出ル水の水神様



日出町民の生活用水として多く利用されている出ル水湧水の水神様です。ここから湧く水は、町内で使われる水道水の4~5割をまかなう大切な湧水です。この辺りは昔、うっそうとした森で、その中に不思議な効能がある泉があったそうです。この泉の湧水量は年中変化がなく、しかも一分間も足をつけられぬほど冷たさであったといいます。

また、泉の中央に亀形の大石があり、その石の上に水天宮の祠があったといいます。地元の人の話では、水源付近には古い歴史を感じさせる文字の刻まれた石造物があったそうですが、水源地造成でその存在も分からなくなつたということです。古くから貴重な農耕用水として四方に通水され、山の水は海沿いの住民の暮らしまでも潤していたと云われています。



# 日出の湧水が出来るまで

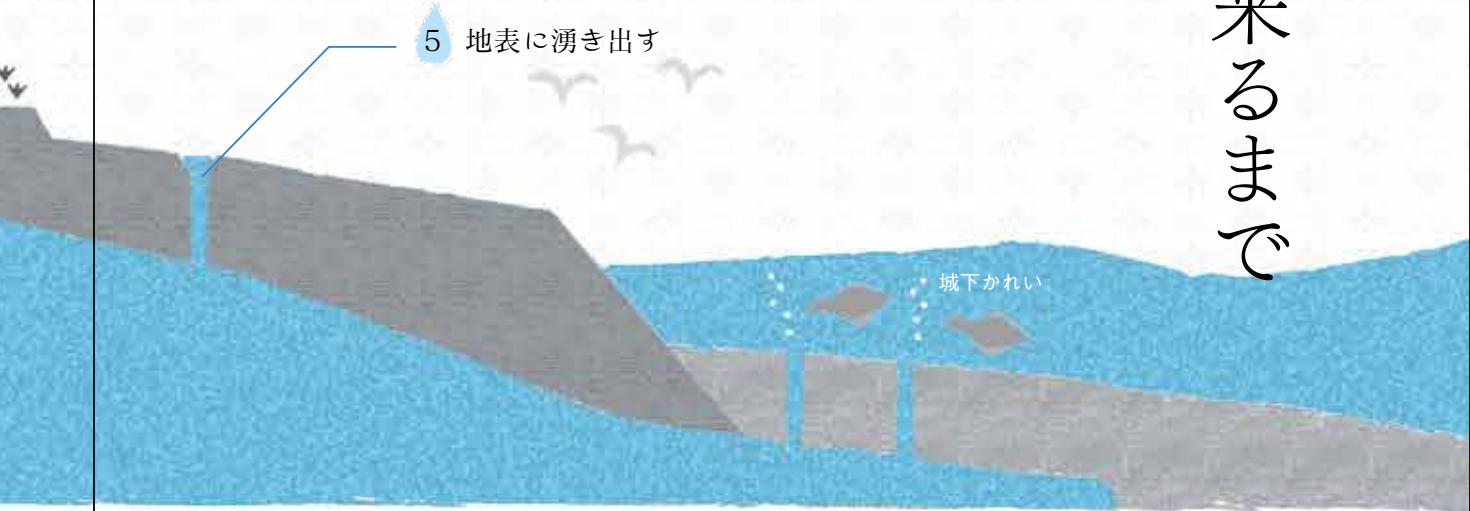
日出の地形が育む  
ミネラルを含む豊富な湧水

ミネラルウォーターを購入することなく、おいしい水の恩恵を受けることが出来る日出町。

転入者が日出町を選んだ理由に、「飲み水がおいしいから」と言うのをよく耳にします。

人々を惹きつける「おいしい水」は、日出町の豊かな自然が生み出した恵みの水です。

江戸時代に徳川将軍に献上された「城下かれい」が味わえるのも、日出城下の海中から湧き出す真水と海水が入り混じり、豊かな漁場が育まれるからなのです。



鹿鳴越連山に降り注ぐ雨。地下に浸み込み、長い年月を経てミネラルを含んだ良質の水となって町内に至る所から湧き出ています。

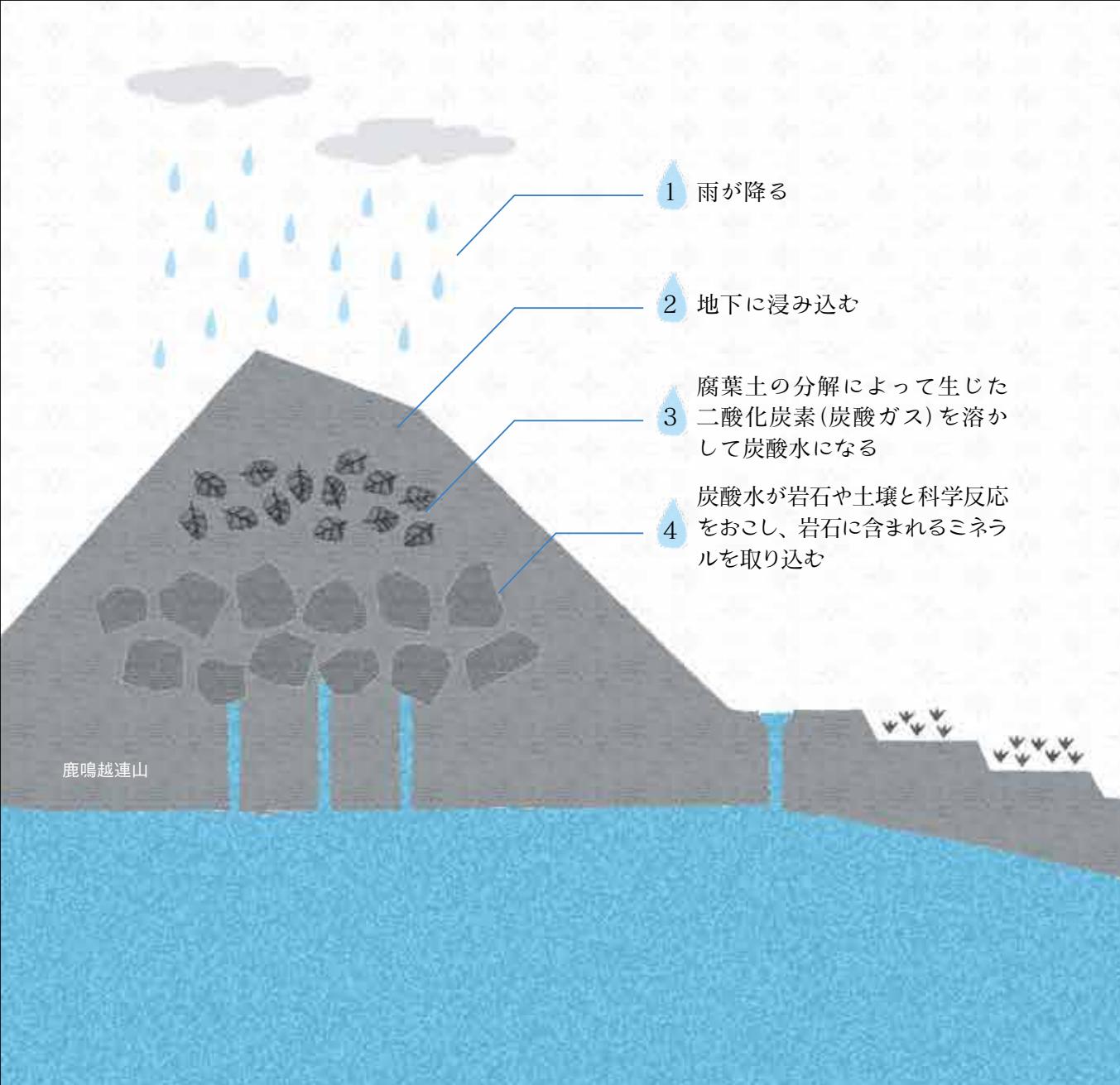
雨水そのものにはほとんどミネラルが含まれていませんが、山肌を覆っている腐葉土の分解によって

生じた二酸化炭素（炭酸ガス）を溶かして炭酸水になります。この炭酸水が岩石や土壤と化学反応をおこし、水中に岩石に含まれるミネラル（カルシウムやナトリウムなど）を取り込みます。

ミネラル成分量のみで水のおいしさが決まるわけではありません。他にも年間を通じてほぼ一定の低い水温や、飲みやすい軟水であることなど、日出町の水は「おいしい水」と呼ばれる条件を兼ね備えているのです。

まちの人々には水に感謝し、大切にする気持ちが古来より生活に根付いています。湧水がある場所は水神様があり、その苔むした水神様の周囲は綺麗に掃除され、花が生けられ、大切にされている様子がうかがわれます。

自然の恵によつて作られた水。田畠を潤し、人を潤す水に感謝し、大切にする人々の生活がそこにあります。



5 地表に湧き出す



辛さ控えめの自家製カレーを使った「カレーパン」120円。ほんのり甘いふわふわのパンはぶどうの樹ならではの優しい味で、子どもからお年寄りまで食べられる。福神漬けの食感が面白い



上: ポテトフランス120円 下: ポテト&ベーコンチーズ130円。それぞれ柔らかめのフランスパン生地を使った人気商品

元々は愛知県でカツプ麺等の容器を作っていたご主人。別府市の老舗「友永パン」での修業中に、自分でおいしいパンを作つてみたいく思ったのがきっかけで、賑やかになり始めた日出町に、3年半前お店をオープン。

町内の「鈴木養鶏場」の卵を使った生地はふわふわで、どことなく懐かしい味。店頭に並ぶほとんどパンが柔らかく、そのため子どもやお年寄りも多く訪れる。人気商品「ポテト&ベーコンチーズ」が食べたくて、夢にまで出てきたというお客様もいるのだと。また、珍しさも売りの、生クリムが入った冷たいパンがあり、甘さ控えめで女性に人気だそう。



パン工房 ぶどうの樹

日出町川崎 252-3 0977-72-7776  
7:00~18:00 固日曜・祝日 店舗前に数台あり



ほとんどの惣菜・菓子パンが90円~140円と安価で、お財布にも優しいのが嬉しい



渡邊正幸さんと奥さんの妙子さん。妙子さんの出身地・愛知県で出会ったそう

### 優しくて懐かしくて温かい



第1回

ひじ産  
人口イロ

穏やかな気候と優やかな人々が育む、  
ひじまち産まれのおいしいものや素敵なもの。  
そんな、たくさんの「ひじ産」をイロイロとご紹介。  
今回は、地域の野菜・水・おばあちゃんのぬくもり…。  
色々なひじが詰まったまちのパン屋さんです。



関東へ引っ越し  
されたお客さんからの感謝  
のお手紙



バーナーで表面を  
こんがり。普通と  
はひと味もふた味  
も違う「キャラメ  
リーゼのフレンチ  
トースト」150円

また、店内は広々としたイタ  
リアンデザインのオープンキッチン  
で、プロのパン作りを目の前で  
見ることが出来るので「是非見に  
きてください」とのこと。



上：生ハムとアスパラ260円 右下：ケー  
ルのロールパン60円 左下：くるくるチョコ  
160円



店内にずらりと並ぶバラエティ豊富なパ  
ンたち。その数なんと約40種類もあり、  
選ぶのに目移りしてしまう

ご主人の浩さんと奥さんの緑さん。息  
がピッタリのお二人が手際よくパンを  
作る姿を見ているだけで楽しい



Giornos Bread & Deli MAP P62  
毎日出町3889 グリーンコーポふじの1階  
0977-72-8874 8:30~16:00  
休木曜 20台



愛情と気合いを込めたとことんふわふわブリ  
オッシュ生地に、新鮮玉子をたっぷり使ったカ  
スター入り「ふわとろクリームパン」100円

**体がよろこぶ  
愛情たっぷりのパン**

通りに面したマンションの1階  
にあるスタイリッシュな佇まいの  
「Giornos Bread & Deli」。

店内に入ると、パンを抱えて微笑む、伊東さん一家のイラストが  
目に入る。ご夫婦のイラストが  
お客様が描いてくれたもので、  
店内を温かい雰囲気している。  
ご主人の伊東浩さんは15~16年  
ほど大分市や豊後高田市のパン屋  
で務めた後、7年前に独立し、こち  
らのお店をオープンしたという。  
おすすめは、県内のグルメブロ  
ガーたちが大絶賛の「ふわとろク





一見パン屋さんには見えない、可愛らしい一軒家。入口を見逃さないように



愛犬“ほん”的話をする美鈴さんの優しい笑顔から、深い愛情が伝わってくる

みんなで一緒にパンを作りたい。それが、このパン屋の想いです。だからこそ、丁寧に、愛情をこめて、美味しいパンを提供できるのです。



上:塩麹と玄米を使った「塩ぱん」  
3ヶ入り 120円。シンプルで素朴な味なので、サンドイッチ用としても。下:甘酸っぱいレーズンと香ばしいくるみのバラ  
ンスが絶妙な「クルミ  
レーズン」 530円



パン工房 ほん  
日出町豊岡6434 080-5280-5306  
10:00~19:00 月曜・火曜 店舗付近に数台あり

店頭に並ぶパンはどれも昔ながらの懐かしい味。置かれているオブジェも日出産のものが多く、郷土愛を感じられる



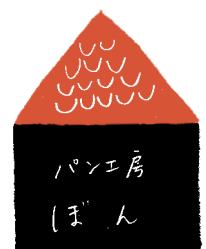
どう見てもゴールデン・レトリバーには見えない犬のイラストに思わず顔がほころぶ、美鈴さんのご主人作のショップカード



おすすめは「玄米食パン」1.5斤 480円。  
すぐに売り切れる人気商品のため、予約がおすすめ

### 美鈴さんの笑顔もごちそう 気持ちがほっこりするお店

店名にもなっている“ほん”とは店主・末政美鈴さんの今は亡き愛犬ゴールデン・レトリバーの名前。看板やショットカードの他、お店の至る所に“ほん”と思われるイラストや写真が並び、嬉しそうに“ほん”的ことを語る美鈴さんは、こちらの海や夜景を見たとき、あまりの美しさに感動したそう。今ではまわりに友人が多いたつについて長居してしまう。



# お母さんの 手仕事

豊岡婦人会の皆さんのがお揃いで被っているのは、婦人会の一員白水さんが、手芸サークルで作ったという「手ぬぐい帽子」。メンバーへプレゼントしたところ大好評で、それ以来、皆で被るようになったのだとか。今回、見た目も可愛らしく実用性もある「手ぬぐい帽子」の作り方を、白水さんに教わってきました。

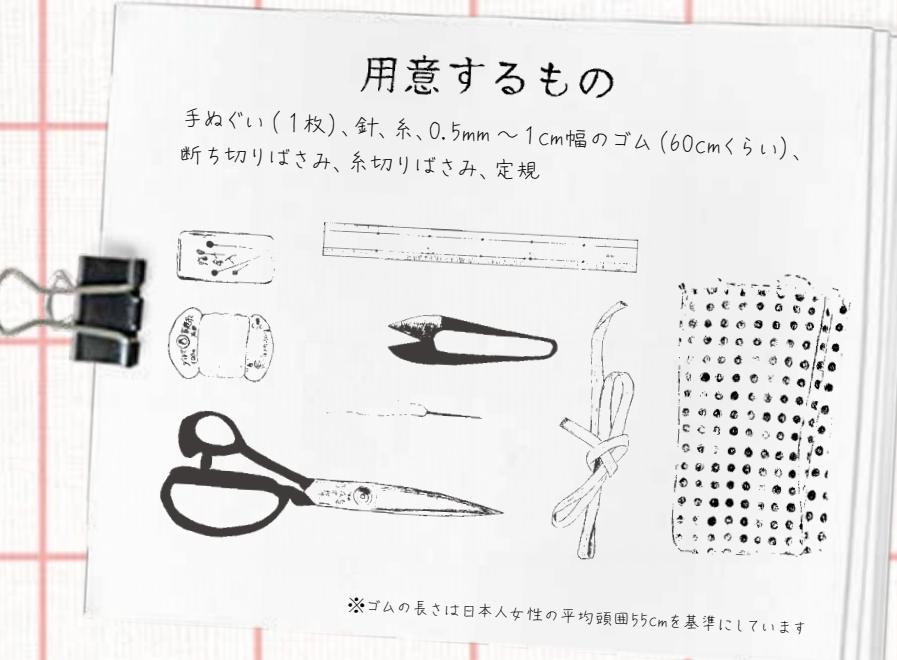
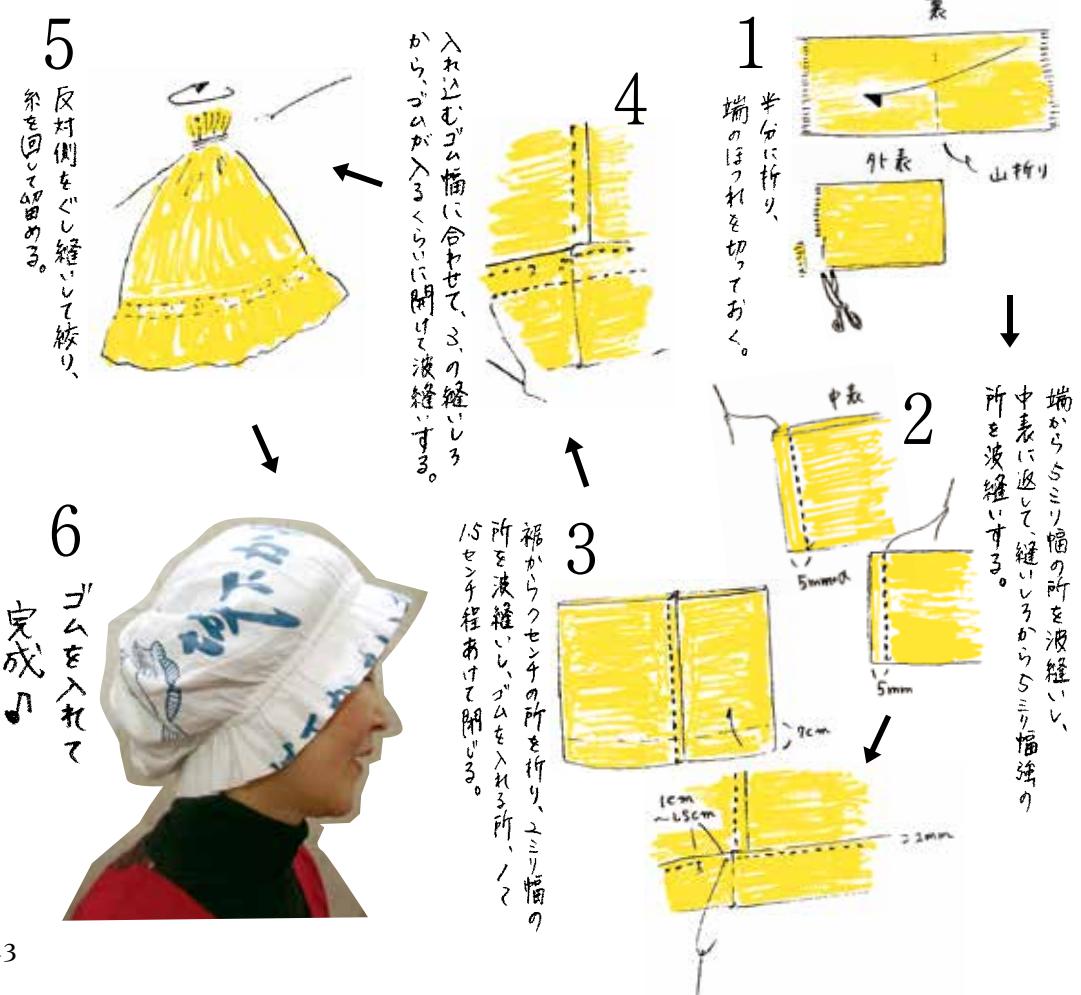
## 「手ぬぐい帽子」



お揃いの帽子だとチームワークも増します。婦人会のみんなで「ハイポーズ」。右から2番目が白水さん



### 手ぬぐい帽子の作り方



### 用意するもの

手ぬぐい(1枚)、針、糸、0.5mm～1cm幅のゴム(60cmくらい)、  
断ち切りばさみ、糸切りばさみ、定規



※ゴムの長さは日本人女性の平均頭囲55cmを基準にしています

## 特集 3

# ひじ暮らし

日出のまちとの向き合い方

日出町は小さなまちですが、  
そこに住む、訪れる人々は  
自分の個性や好みに合わせて  
思い思いの時間を過ごしています。

海・山・水・歴史・地形：

挙げれば限りない日出のまちの魅力。

まちと人がそれぞれの個性を生かし、

上手に向き合って

ひとりひとりが自由に楽しむ。

日出のまちとの向き合い方。

ほんの一端ですがご紹介します。



# 1日を感じるって 大切ですよね

陶作家 小林陽子さん

雨上がりの午前、青々と葉が生い茂る果樹園のそば、小高い丘の上にある小林陽子さんのアトリエを訪ねました。

別府市に生まれ、幼少の頃から京都で育った小林さん。絵を描くのが大好きで、高校、大学と美術・陶芸を学びます。2000年に祖母が住む別府市へと戻り、画廊スタッフとして働きながら作品を作ります。その後、両親の定年退職をきっかけに、日出町の景色に惹かれ、一家揃って移住し、本格的に作家活動を始めます。

アトリエは小さな平屋の家で、

自宅の作業場とは別に、ギャラリーも兼ねた作業場を探していましたところ、一目惚れして決めたそうです。

改装中の室内には小林さんの作品が並んでいます。小さなオブジェはほつとするような優しい色合いで、手に取るとざらりとした独特な手触り。小林さんの繊細な手仕事が伝わってきます。

「気持ちいいでしょう。白い格子窓から望む景色、すごく好きなんですね」

ラフランスのオブジェ、「青銅器っぽい色合いを出したいたいなと思つて」。フォルムが美しい



遠くの山、近所の果樹園、目の前には季節の花々と、主張し合わずにお互いがなじみあう景色が広がっています。まるで窓枠は額縁、景色は絵画、自然の中にある美術館のようです。

ご近所さんは優しい人が多く、恵まれているとのこと。

「大家さんが『あなたの好きなように楽しんでね』と言つてくれて」と、安心して活動が出来ることに嬉しそうです。

自宅はアトリエから車で10分。

「海に近いこともあり、両親の樂

くりをしている人に、「緑が多いし、住みやすそう」とか『行つてみたい場所』と言われる』のだから

「おだてているわけではないのでですが、日出町は暮らすのにちょうど良く、住む人が楽しめるまちですね。まだまだ発展していないところがいいです。最近は、少しうつカフェやパン工房などもオープンしているので、穏やかな生活をしたい人にお勧めです」

都会に住む友人や町外でものづくりをしている人に、「緑が多いし、住みやすそう」とか『行つてみたい場所』と言われる』のだから

しみは貝堀りです。とくにマテ貝。塩を入れて、ぴゅっと。砂から出てくる様子が楽しいらしくて。それは野菜をほとんど買わなくなりました

今はじやがいもや玉ねぎなどを作つてているそうで、「海の近くの庭付きの家を探していた」小林さんは、希望通りの環境に心から満足している様子です。

「おだてているわけではないのでですが、日出町は暮らすのにちょうど良く、住む人が楽しめるまちですね。まだまだ発展していないところがいいです。最近は、少しうつカフェやパン工房などもオープンしているので、穏やかな生活をしたい人にお勧めです」

本格的な夏が始まるとともに、日出町にまたひとつ爽やかな風が吹き始めそうです。



Atelier Tone (アトリエ土音) MAP P62

□日出町川崎 4330-12

□http://kobayashiyoko.blog.fc2.com

□午後から日没くらいまで □不定休 □有



アトリエがある丘の下にはキウイフルーツ畑が



自分たちの家から電線が見えない場所を  
さがしてしまって



Casa del viento  
国日出町大神瀬の上 4410-2  
0977-72-5136  
一泊素泊まり1人 6,000円(朝食は別途500円)

MAP P62

海を望む南向きの斜面の上にある宿「Casa del viento」は、軸丸光則さん・真由美さん夫妻がふたりで営んでいる客室1部屋だけの小さな宿です。自然の中でゆったりと過ごす暮らしに憧れていた光則さんは、田舎暮らしを紹介するテレビ番組を放送開始当時から欠かさず見ていましたほどです。会社で早期退職者を募っていたところ、やりたいことを始める良い機会だと思って、すぐ手を挙げたといいます。

「ちょうど震災が起こったとき

で、仕事のことや今後の人生のことを考えました。色々とやりたいこともありましたしね」

57歳で勤めていた石油会社を早期退職し、真由美さんと2人で写真スタジオと宿をしようと決めてから、場所探しが始まりました。「自分たちの家から電線が見えない場所がいい」というのがふたりの希望。当時、湯布院を中心でライダルカメラマンとして活躍していた真由美さんは、貸別荘を宮む知人から情報を得て物件を探しますが、簡単に理想の場所は見つ



この場所でオープンして、今年の8月で1周年。最初に相談した貸別荘を営む友人に「宿泊業っていい仕事だよ」と、言っていた真由美さんは、お客様と触れ合ううち、その言葉が「本当だな」と感じたと言います。

「まだ1年経たないので、既に3回も泊まりに来てくれたお客様もいるんです」

さんは、宿を始める前に京都までの時間を過ごしてもらえたから嬉しい。インターネットも敢えて繋いでいるので、仕事を忘れて息抜きしてもらいたいですね」

「57歳で新しいことを始めるのは遅いかな?なんて思いますが、まだまだ、やりたいことがいっぱいあるんです」。木工好きの光則

「こんなに器用だとは思ってなかつた」という真由美さん。

「商売としてはまだなんですが…」というふたりですが、訪れる人がほっと出来る宿を少しづつ形にしているということです。



自然素材を使った焼き菓子は真由美さんお手製

かりませんでした。

そんな時、光則さんがインターネットでこの土地を見つけました。ふたりがよく通っていたレストランの近く。「ロケーションも含めて、そのレストランが好きだったので、見つけた瞬間『あそこじゃない?』って話して、下見に來た日の帰りに決めちゃいましたね」と話すふたりは、色々と当

気になるという光則さん。「せつかく来てもらつたんだから喜んで

「広島から幼稚園の卒園旅行だと言つて、子どもさんとお母さんの2組がお泊りになつたり、大学生の娘さんの卒業式のために、ご両親と高校生の弟さんが泊まられた。仲の良いご家族の姿が微笑ましいんですね」と、毎日が素敵なお会いの連続だそうです。

お客様を迎える日は、天気が悪くなるという光則さん。「せつかく来てもらつたんだから喜んで



アメリカンコッカースパニエルのルークくん

「西ヶ原見られるよー」

## Casa del viento 宿泊客 指揮者 ステファノ・マストランジェロさん



軸丸夫妻が「老後の楽しみ」だという宿泊客の感想ノート



ゆったりと過ごせる客室



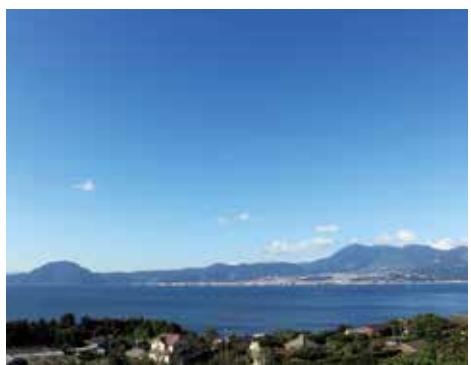
オーナー光則さんの木工作品

初めて日出町を訪れて、海が見える宿に1週間滞在したというステファノ・マストランジェロさんは、日出町の印象を「夢が見られるまち」と語りました。さらに「(自然が)芸術的な美しさを残している。大切にされたこれらの景観はシチリアやナポリに繋がる」とも話しました。

ステファノ・マストランジェロさんは、イタリア・ローマで音楽一家に生まれ、現在、指揮者として世界中で活躍しています。今は、別府市で開催されるイタリアンオペラの指導者として招かれました。練習会場や公演が行われるのは日出町の隣の別府市や、さらにはその隣の大分市でしたが、今回、

指導する生徒の1人が「滞在中にゆつたりと過ごしてほしい」と、軸丸夫妻が営む宿に招待してくれたのだといいます。ここに滞在した感想を「予期しなかった喜びでした。天気や気温によって、山が見えたり隠れたり…。昨日の夜は見えていた山が、翌朝にはまるで何かに食べられてしまったかのように霧の中に隠れてしまったりと、自然が持っている魔法の力を感じさせてくれる場所でした」と語ります。

指揮者という仕事柄、オーケストラのメンバーや歌手など、たくさんの人々に囲まれていて、常に人間を見ている・見られている状態が続いていました。ここに滞在し



ステファノ・マス  
トランジェロさん  
と奥さん

「海とか水とか、生きていることを再確認しました。毎日、船を見ながら何の魚をとっているのかなと思っていたよ」と漁船を指さして、奥さんと微笑み合いました。

「海とか水とか、生きていることを再確認しました。毎日、船を見ながら何の魚をとっているのかなと思っていたよ」と漁船を指さして、奥さんと微笑み合いました。

「普段の生活とかけ離れた…、良い意味で閉ざされていて、夢を見るような時間が過ごせる。木々の伐採や、ビルが密集した不自然さがなく、ただただ、自然の素晴らしさ、空気を感じながら過ごしました」

旅の感想を、まるで詩を朗読するように語ったステファノ・マストランジェロさん。その言葉を聞いて、宿のオーナー軸丸夫妻は、自分たちが気にとめていなかつた周囲の音を、耳を澄ませて聞くようになったそうです。

「普段の時間はとても音楽的な時間でした。テラスにはうぐいすたちの鳴き声が聞こえます。そして別の場所からは『トン・トン・トン』と誰かが家の補修をしているような、金鎗をたたく音が聞こえきます。その音は何かを生産しなければならないと、急いでいるのではなく、ゆつたりとしていて、作業を楽しんでいるような音に聞こえました」

練習会場までおよそ35kmの道のりを通り、毎日でしたが、長いと思わせない景色があつたから、楽しかったといいます。

「海とか水とか、生きていることを再確認しました。毎日、船を見ながら何の魚をとっているのかなと思っていたよ」と漁船を指さして、奥さんと微笑み合いました。

## 湾を見渡せる

### コースが面白し

ノルディックウォーキング

インストラクター

林弘美さん



クラブのメンバーと林弘美さん(写真手前右)



絶好のロケーションで記念撮影

「昨年からは、大分市にUターンし生活しているものの「あまりよく知らない」という印象は変わらないままだったそうです。

あるとき、日出町にある築100余年の商家跡で「おくど市」というマルシェを主催する友人に「いいコースがあるよ」と紹介されたのが、城下海岸遊歩道と呼ばれる別府湾沿いのコースでした。

「初めて案内してもらった日は天気が良くて、湾全体が綺麗に見渡せたんです。その日の午前中、湾の反対側にある高崎山に登ったのですが、『さっきまで、あそこにいたんだ』って、なんだか感心していました」

城下海岸遊歩道は、中学生のマラソンの授業や地域の人のジョギングコースとしても利用されており、朝や夕暮れには健康を意識する人々が行き交います。

「フラットなコースで参加者を選ばないし、途中にトイレもあるし、車道と歩道が分かれている歩きや

すい。4本脚で歩くノルディックウォーキングは、膝や腰の負担を軽減するのですが、クッションとなるカラー舗装がしてあるので、なお良いですね」「景色もさることながら、国道から1本入つだけなのに静かなのも気に入りました」

県内在住が多数を占めるクラブメンバーも「こんな場所があるなんて知らなかつた」「もっと知らせた方がいいよ」「いいところがあるのに、広く伝わっていないなんてもったいない」と口々に感想を話し、写真撮影に興じていました。

友人と美しい景色を見ながら歩き、おしゃべりしながら心も体も健康になる。定例会の後にはおいしいものを食べるのも恒例。楽しみを持って参加するのが、長続きの秘訣だということです。

およそ2時間のウォーキングの後は、マルシェで買い物しランチを楽しんでいました。

前日からの雨があがり、薄雲の隙間から太陽の光が射しこむ、日曜日の朝。日出町の城下海岸で、13名の参加者が円になつて準備体操をしています。

この日集まっていたのはノルディックウォーキングクラブオオイタのインストラクターである林弘美さんと、クラブのメンバー

です。月に4回、定例会として、大分県内をはじめ熊本県などでノルディックウォーキングを行っていますが、この日は初めて日出町のコースに挑戦しました。

ノルディックウォーキングとは、2本のポールを使って歩く、ノルディックネスエクササイズの一種です。もともとクロスカントリー

スキーの選手が夏場に雪のない山などを歩くトレーニングとして、フィンランドで始まったそうです。「国と学校、医療機関やスポーツメーカーが協力して行った健康増進法で、幅広い世代の方が参加しているんですよ」。



「奈良に定期的に帰るなど、

全國になかなかいところがなくてなあ」

岡井宏士さん・八栄子さん

「奈良に定期的に帰るとなると、全国になかなかいところがなくてなあ」

自分たちが『住みたい』と強く思うこと』と、奈良へ帰るのに便利がよいところ』という条件で、奈良県出身の岡井宏士さんが全国様々な土地を実際に見てまわり、日出町に住居を構えたのは21年前のことです。

「日出町には縁もゆかりもないんですけど、2年間基礎調査したんよ」不動産業を営む岡井さんは仕事のため、定期的に奈良県へ通う必要がありました。九州内から大阪方面へのアクセスが良好であると候補に挙げたのが、福岡市・大分県内の杵築市・日出町などでした。



県の新聞を定期購読し、情報収集。「隅から隅まで読んだから、地元の人でもよお知らんことを、なんでも知つてたわ」。更に、日出町に惹かれた理由が水だそうで、「水がいいから、水道水からして違う。ボウリング水に近いし、そのせいか何食べてもおいしい」と、満足そうに微笑みます。

奥さんの八栄子さんは、25年来の趣味であるパン作りの腕を見込

まれ、近隣の人向けに天然酵母パン教室を行つており、仲の良い友人も増え、充実した日々を送つているそうです。

「ある意味、すごく豊かな暮らし。わざわざ宿泊料払つて遊びに行くような所に、その日の思いつきで行けるし」と、関西の友達を招いて阿蘇や湯布院へ日帰りの旅行を楽しんでいます。

「住むにしても、これほど綺麗な町は全国でも珍しい。海あり山ありで細長く広がる町全体が南向きのひな壇になつて、雨も多くない。

風光明媚つて言葉は、日出町の人めにあるんやないか? 自分が選んで移り住んだとなると、良いことはばつか言うつて思われるけど、実際、あんまり欠点がない。ほぼ無条件でいいって言える」

いう岡井さんは「楽しんでますよ。暮らしが満喫している様子でした。



たくさんの友人が訪ねてくる岡井さん宅

新幹線、飛行機、高速道路など

あらゆるアクセス方法を検討した結果、飛行機が使って、自分たちの生活に一番都合が良いと判断したのが日出町でした。以来21年間、日出町と奈良県の間を定期的に行き来していますが、慣れもあり、奈良県への毎月の出張に不自由は感じないとのことです。

「飛行機はあまり好きやないから、緊急のときだけやけどね」「家からたつた7分のところに、高速の入り口があつて、全国の高速道路網に繋がつて。家からの7分の間には渋滞なんてないし、ストレスもないわ」

アクセスはもちろん、環境の良さ、買い物・病院などの利便性も追及しました。「当然、みんな気になるでしょ?」と、大分県に七星をつけてからは、奈良県で大分



トピック  
ひじまち  
町内で起こった出来事や  
話題にマニアックに迫る  
コーナーです!!

# たこ天神伝説

役場の書棚にあった日出町誌をめくっていたところ、  
目にした「伝説を秘める神仏・たこ天神」の記述。  
強烈な印象を与える名称。そして、諸説あるドラマ  
チックな物語。謎に包まれた「たこ天神」の全貌を、  
脚色無しで皆さんにお伝えします。

画: 勝 玄



今回唯一発見!!  
小田城にある  
たこ天神を祀  
る祠



豊岡漁港。本当に大だこは、この  
海から陸に上がったのだろうか…

まず、たこについて解説しましよう。歐米ではその姿の不気味さから「悪魔のつかい」と云われ、口にしないそうです。反対に日本では末広がりを意味する8本の足を持つため、「多幸」を表現すると云われています。

そのため、たこが多く獲れた地域では、信仰の対象として、たこ神様やたこ地蔵が祀られています。

しかし、今回取りあげた「たこ天神」、記述からは、多幸のために祀られた様子は伺えません。また、祀った石祠は数ヶ所あるそうですが、正確な場所が分からなくなったり、移築されていたりと、未だに全て発見出来ません。

さて、都市伝説なのか、謎めいた「たこ天神伝説」。この逸話、これからも調査にあたっていきます。

## 都市伝説なのか?! たこ天神

### 伝説1 「たこのたたり」

むかしむかし、瓜生島うりゅうじまが別府湾に浮かんでいた頃、たこの王様と白物と呼ぶべっぴんな海の女神（弁天様のことらしい）が住んでいました。島がなくなったとき、たこの王様と白物は、海を渡り、豊岡の浜まで歩いてきました。白物は鹿鳴越を越えて逃れましたが、後を追うたこの王様は、足の数が多いため、思うように歩けません。そのうち小田城の畑の上に取り残されて、往生してしまいました。見つけた村人たちは、たこの王様を「たこ天神」として祀ることにしましたとさ。

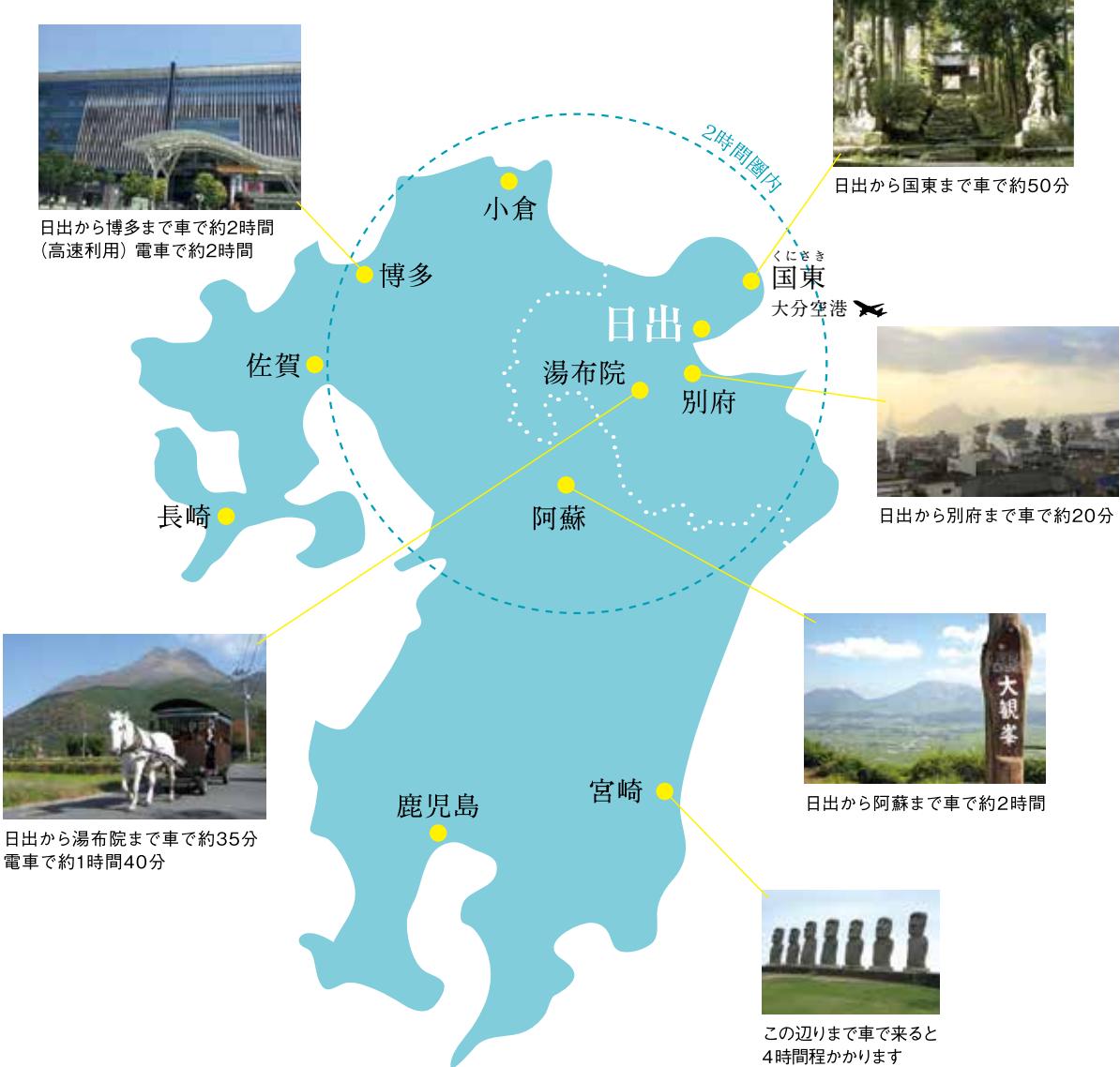
### 伝説2 「たこの王様と白物」

むかしむかし、瓜生島うりゅうじまが別府湾に浮かんでいた頃、たこの王様と白物と呼ぶべっぴんな海の女神（弁天様のことらしい）が住んでいました。島がなくなったとき、たこの王様と白物は、海を渡り、豊岡の浜まで歩いてきました。白物は鹿鳴越を越えて逃れましたが、後を追うたこの王様は、足の数が多いため、思うように歩けません。そのうち小田城の畑の上に取り残されて、往生してしまいました。見つけた村人たちは、たこの王様を「たこ天神」として祀ることにしましたとさ。

\*瓜生島… 別府湾に浮かび、一夜にして沈んだとされる島。実在については諸説あり、現在も研究者によって見解が分かれている。一夜にして沈んだ共通点を持つことから日本のアトランティスと呼称されることもある。



## [およそ2時間で行ける近郊の観光地]



## □日出町の交通 お問合せ先一覧

<b>レンタカー</b> (大分空港カウンター)	JR九州
・トヨタレンタリース 0978-67-0007	・JR九州 予約センター 050-3786-3489
・ニッポンレンタカー 0978-67-3324	・案内センター 050-3786-1717
・タイムズカーレンタル 0978-67-2929	・豊後豊岡駅 0977-72-9070
・日産レンタカー 0978-67-3151	・湯谷駅 0977-73-0800
・バジェット・レンタリース 0978-67-1943	・日出駅 0977-72-2730
・オリックスレンタカー 0978-67-3435	・大神駅 0977-73-1008
<b>バス</b>	<b>タクシー</b>
・大分交通 別営業所 0977-67-1331	・いわおタクシー 0977-72-2221
・国東観光バス 枝栄営業所 0978-62-5411	・速見はとタクシー 0977-72-2001
・大交北部バス 安心院営業所 0978-44-1155	・日出タクシー 0977-72-2017
・コミュニティバス 日出町役場 政策推進課 0977-73-3116	

## [東京・大阪から日出町(湯谷駅)までのアクセス]

日出町の観光案内所「二の丸館」の最寄駅である  
湯谷駅までの、主な経路とおよその所要時間です。



東京(羽田) ⇄ 大分 ANA・JAL・ソラシドエア

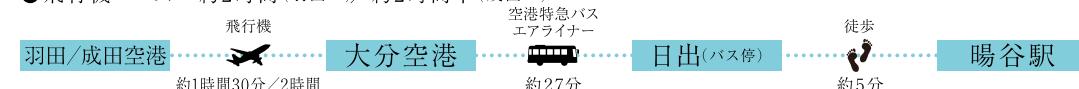
東京(成田) ⇄ 大分 ジェットスター

大阪(伊丹) ⇄ 大分 ANA・JAL・IBEX

名古屋(中部) ⇄ 大分 ANA・IBEX

### □東京から日出町(湯谷駅)

#### ●飛行機+バス 約2時間(羽田~)/約2時間半(成田~)



#### ●飛行機+車 約2時間



#### ●新幹線+JR 約6時間15分

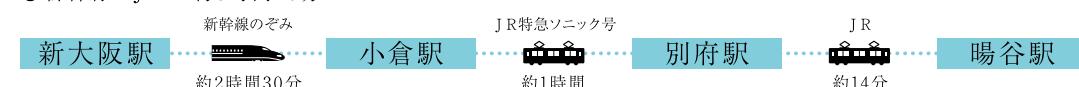


### □大阪から日出町(湯谷駅)

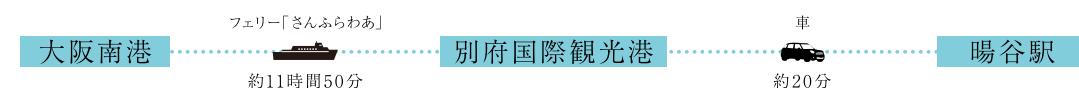
#### ●飛行機+バス 約1時間30分



#### ●新幹線+JR 約3時間45分



#### ●フェリー+車 約12時間10分



# 健康づくり

## 日出町保健福祉センター

人気のジョギングマシンやバイクマシン、本格的なトレーニングマシンなどを設置しています。トレーニング利用料金は、町民であれば1回200円、12回券だと2,000円とお得です。また、65歳以上の町民であれば無料で利用できます。土日祝日も開館、月～土曜日は夜間も開館しています。

## 糸ヶ浜海浜公園

ビーチバレーに海水浴、テニスなどで汗を流し、バーベキューも楽しめます。日の出や海を望めるキャンプ場も併設。

## スポーツ施設・レジャー施設が充実

公園は13ヶ所、他に体育館、柔剣道場、弓道場、グラウンドなど、健康づくりに役立つ施設が豊富です。

# 安心いつでも

## 救急患者も安心な医療体制

人頃の治療や万一の入院でも安心な各種の医療機関が充実しており、救急をする場合の受け入れ態勢も整っています。

## 防災行政無線を整備

万一、津波や地震が起きた際でも、24時間体制で防災情報を迅速に伝えるシステムが、沿岸部を中心に整っています。

## 緊急通報システム『愛ことば』の無償貸与を実施

緊急通報システム『愛ことば』は、高齢者のみで暮らしている方や障がいのある方が、急病や事故等の緊急時に必要な措置を受けられるように、24時間体制で「受信センター」の専門スタッフが対応しています。「受信センター」では、必要に応じて事前に登録した協力員や関係機関に連絡を行います。

# 交通の便が良い

## 移動手段はいろいろ

公共交通機関はJRとバスがあります。駅周辺や中心市街地は整備された平坦な道が多く、自転車での通勤・通学・買い物が可能ですが、自動車があるとより便利です。

## 近距離に空港・高速インター

空港まで車で約30分以内、高速インターまで約15分以内と、出張・旅行へ行くにも便利です。

## 町内専用のバス

公共交通の他、コミュニティバスがあります。略して「コミバス」は、定時定路線と、要望に応じて運行を行うデマンド運行路線があります。

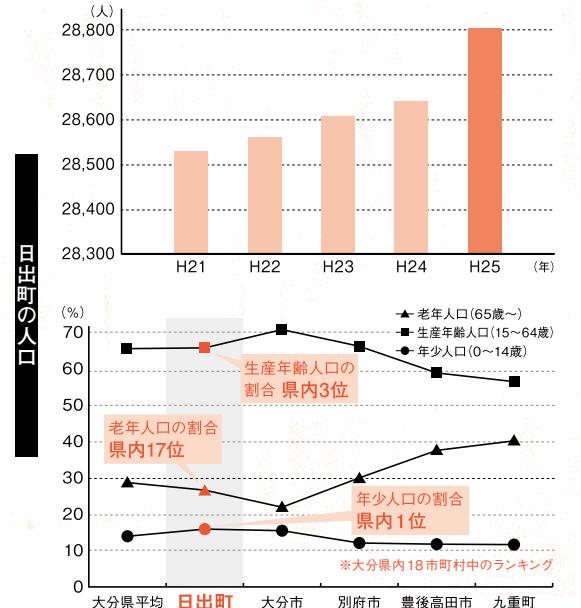
## 日出町の人口と家賃・地価相場

日出の家賃相場は2LDKで約40,000～60,000円。地価は日出中心部で1平米=約36,900円。転入者の世代は幅広く、リタイア後の悠々自適な生活を送る人のみならず、静かな環境で子どもを育てたいという若い世代も多いのが特徴です。また、賃貸物件だけでなく、宅地造成も進められています。家庭菜園付きの1戸建ても夢じゃない!?

### 日出町の家賃と地価

家賃(2LDK)  
約40,000円～60,000円

地価(中心部)  
1平米=36,900円



# ひじ暮らし、考えてみませんか？

自然が豊かな日出町ですが、都会の人が思う“自給自足の田舎暮らし”だけではなく、交通の利便性を生かして大分市や福岡市方面へ通勤するなど、生活スタイルも様々です。

1ターンや若い夫婦の移住者が多い町だからこそ、都会暮らしも田舎暮らしも楽しめる人々が多いのです。中には、休日や長期休暇の間だけ日出町に暮らす人もいます。そんな「日出町で暮らしてみたい」と考える皆さんのために、気になるまちの様子をリストにしてみました。

# 自然環境 恵まれた

## 災害が少ない

梅雨時期に雨量が増えるため、年間平均雨量は1,600mm前後と比較的雨量の多い地域となります。大きな河川がないため、洪水、土砂崩れなどの水害は少なく、積雪による被害も少ないです。

## 暖かい気候

瀬戸内海型気候区に含まれ、年平均気温は14℃前後と温暖です。また、南向きのなだらかな地形のため、一日中陽のあたる町です。

## 登山に釣りに

別府湾や大分市・別府市を望める景観の素晴らしい山が連なっています。また海岸には、アジやチヌ、アラカブなどが釣れる釣り場もあります。  
・おもな山岳…七ツ石山、経塚山、板川山、百合野山、古城山、城山  
・おもな釣り場…豊岡漁港、日出漁港、大神漁港

# 暮らしを楽しむ

## 買い物は町内で

中心部には、スーパーマーケット、商店、コンビニエンスストアはもちろん、ホームセンター、衣料用品店など各種揃っています。道路沿いの無人販売も楽しい。

## 海の幸、山の幸

自家農園、釣りなど、田舎ならではの幸が豊富です。大神深江漁港では朝の7時半から朝市が行われ、お得な価格で魚介類を購入出来ます。

## 地産地消の飲食店

お仕事帰りに「ちょっと一杯」の居酒屋や、休日を家族で過ごすカフェ、地産地消の割烹料理と、様々なジャンルの飲食店があります。

## 上下水道料金の安さは、大分県内第2位！

20トンまでの利用(4人家族の平均使用量)で水道料金1ヶ月2,100円で使用できます(平成24年4月1日現在)。

## 一家に1つ、農園はいかがですか？

農業への理解を深めるために開設した「日出町ふれあい農園」は全20区画あり、季節折々の野菜や草花の栽培が楽しめます(受付期間内の申込による)。

## まちの小学生と国際学生との交流

立命館アジア太平洋大学(別府市)は、世界中から様々な学生が留学しており、日出町の小学生との異文化交流を行っています。

春は花見、夏は七夕、冬はクリスマスと、年間を通して様々な行事に参加したり、田植えや稻刈り作業を行うなど、地域に根付いた交流が育まれています。

# 子育てしやすい

## 両親学級

子育てについてのお話や、妊婦体験・沐浴体験などを行い、赤ちゃんのいる生活のイメージを持ちやすくします。

## お母さん教室

妊娠・授乳期の食事・お産について、ゆっくり聞いたり話したい方、他の妊婦さんと交流されたい方におすすめの教室です。

## こにちは赤ちゃん訪問

日出町に生まれたすべての赤ちゃんのお宅を保健師や助産師が訪問し、心のケアを行います(産後うつスクリーニング)。

## ブックスタート事業

4ヶ月児健康診査のときに、親子で楽しい時間がもてるよう、絵本の読み聞かせをし、絵本をプレゼントします。

## ホームスタートひじ

6歳以下の未就学児がいる家庭へ訪問し、先輩ママが話し相手になったり一緒に出かけたり、フレンドシップを主とした子育てのサポートをします。

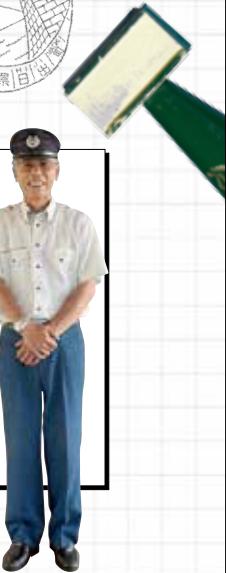
## 母子の相談はひとつの窓口で

母子保険、児童福祉など、母子に関する窓口が1ヶ所(福祉対策課)となっており、移動することなく相談できます。

## 学校・保育施設

保育園認可7ヶ所・認可外2ヶ所・幼稚園7ヶ所・小学校6ヶ所・中学校3ヶ所・高等学校1ヶ所・支援学校1ヶ所・児童館3ヶ所・放課後児童クラブ5ヶ所

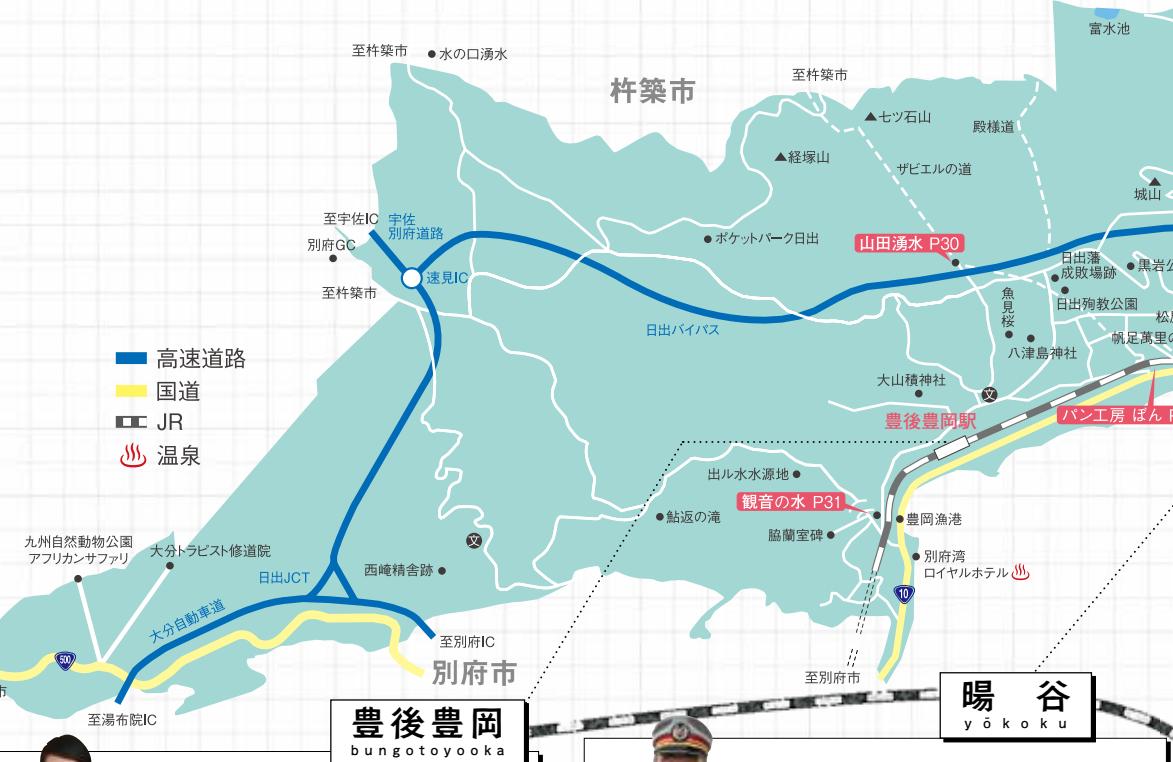
# 日出町 MAP



おすすめスポット：まないのホテル、  
大神ファーム  
駅の特徴：目の前の竹林から鳥の  
鳴き声が響き渡る

挨拶や声掛けは欠かさないという鉄道  
一筋45年の石井さん。顔なじみの学生  
の卒業式に「今までお世話になりました」と  
鉢植えをもらったことがあるそう。  
石井さんの温かい人柄がうかがえる。

駅員：石井良一さん



近隣市町村への通勤通学はもちろん、休日ちょっと足を伸ばしての日帰り旅行など、移動も快適。大分空港道路は日出 ⇔ 大分空港間が無料です。

町内にある各駅はレトロなものが多く、湯谷駅を除いた3つの駅は100年以上の歴史があります。各駅に降り立つと、駅舎のみならず周辺の風景もそれぞれ魅力的な特徴があり、鉄道ファンの撮影スポットとなっています。

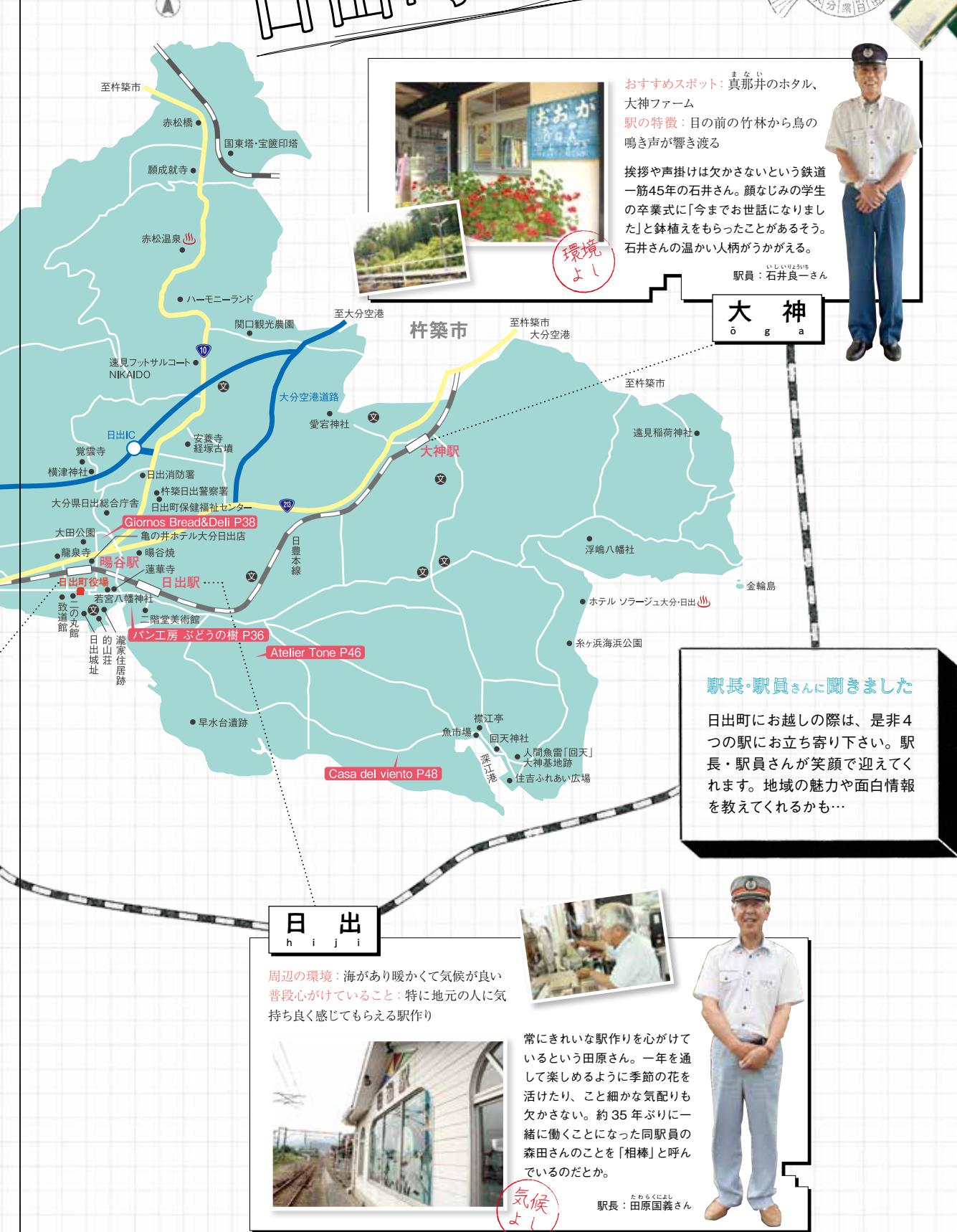
日出町を訪れた際は各駅で下車してのまち歩き、車を利用してのドライブなど、楽しみ方は様々です。

## 交通の便がよい日出町

大分自動車道と大分空港道路、そして国道10号線と国道213号線など主要な道路が交わる日出町。また、小さな町にも関わらずJRの駅が4ヶ所もあり、車でも公共交通機関を使っても、どこに行くにも便利な町です。

近隣市町村への通勤通学はもちろん、休日ちょっと足を伸ばしての日帰り旅行など、移動も快適。

大分空港道路は日出 ⇔ 大分空港間が無料です。



### 駅長・駅員さんに聞きました

日出町にお越しの際は、是非4つの駅にお立ち寄り下さい。駅長・駅員さんが笑顔で迎えてくれます。地域の魅力や面白情報を教えてくれるかも…



明治44年開業でレトロな駅舎は当時のまま。目の前に広がる景色は圧巻。お客様からご要望があれば、旅行のスケジュールを組むこともあるという三島さん。「行き先に迷ったら是非お声を掛けてください」とのこと。

駅員：三島クリスさん

駅員：阿部健治さん

おすすめスポット：町の有形文化財にも指定されている「的山莊」、城下かれいを食べられる普段心がけていること：丁寧な接客と対応

昨年の4月から駅長として湯谷駅に赴任してきた、日曜大工が得意な阿部さん。駅舎内には、阿部さんお手製の棚があったり、ご自宅から鉢植えを持参して花を絶やさないようにしたりと、そこかしこに阿部さんの心遣いが見受けられる。

駅員：阿部健治さん

駅員：田原国義さん

駅員：田原国義さん



日出町の主な年間行事												
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
かせどり	まちおこし新春健康マラソン大会	赤松山願成就寺 春季大祭・火渡りの行	辻の堂愛宕神社春季大祭	ひなまつり	帆足萬里忌辰祭	経塚山と七ツ石山新緑ハイキング（ミヤマキリシマ観賞会）	糸ヶ浜海水浴場安全祈願祭（海開き）	瀧廉太郎忌辰祭	城下かれい祭り	回天神社例祭	かせどり	
まちおこし新春健康マラソン大会	赤松山願成就寺 春季大祭・火渡りの行	辻の堂愛宕神社春季大祭	ひなまつり	帆足萬里忌辰祭	経塚山と七ツ石山新緑ハイキング（ミヤマキリシマ観賞会）	糸ヶ浜海水浴場安全祈願祭（海開き）	瀧廉太郎忌辰祭	城下かれい祭り	回天神社例祭	かせどり	まちおこし新春健康マラソン大会	
赤松山願成就寺 春季大祭・火渡りの行	辻の堂愛宕神社春季大祭	ひなまつり	帆足萬里忌辰祭	経塚山と七ツ石山新緑ハイキング（ミヤマキリシマ観賞会）	糸ヶ浜海水浴場安全祈願祭（海開き）	瀧廉太郎忌辰祭	城下かれい祭り	回天神社例祭	かせどり	まちおこし新春健康マラソン大会	赤松山願成就寺 春季大祭・火渡りの行	
かせどり	まちおこし新春健康マラソン大会	赤松山願成就寺 春季大祭・火渡りの行	辻の堂愛宕神社春季大祭	ひなまつり	帆足萬里忌辰祭	経塚山と七ツ石山新緑ハイキング（ミヤマキリシマ観賞会）	糸ヶ浜海水浴場安全祈願祭（海開き）	瀧廉太郎忌辰祭	城下かれい祭り	回天神社例祭	かせどり	まちおこし新春健康マラソン大会



## ひじん本

— 第一集 —

2013年8月8日発行

f 日出町 Facebook ページ <https://www.facebook.com/hijimachi>

発行 日出町役場

編集 日出町役場 政策推進課

〒879-1592 大分県速見郡日出町 2974-1

TEL 0977-73-3116 FAX 0977-72-7294

送付をご希望の方は、お名前、ご住所、電話番号、希望号数をご記入のうえ、送付用切手（1冊210円分）を同封し、下記までお送りください。なお、送付は1号につき、おひとり様1冊とさせていただきます。ご了承ください。

また、「ひじん本」の感想もお待ちしております。

〒879-1592 大分県速見郡日出町 2974-1

日出町役場 政策推進課「ひじん本」係

### Thanks

池田利男／勝正光／工藤美鈴／小林弥生／軸丸真由美／渡邊睦子／and 日出町の皆さん（敬称略・50音順）

### [ 読者の皆様へ ]

自然に囲まれたのどかな生活環境、手頃な値段で手に入る新鮮な野菜や魚、気が良くておおらかなまちの人たち。素敵なところが多すぎて何から伝えればいいものか悩みました。日出町の魅力を全国の皆さんにどう伝えるか？編集スタッフがまちの方々にひとつずつ教わる中で感じたこのまちの雰囲気、この本を通じて少しでも伝われば…。と願っています。

編集／上田珠真子・久多羅岐仁美 デザイン／大熊博美

印刷・製本 株式会社インターブリンク

※乱丁本・落丁本はお取り替えいたします。

※本誌内容の無断転記、記載、複写はご遠慮ください。

※本誌データは2013年7月30日現在の情報です。

©hijinbon all right reserved